

環境マネジメントシステム

環境教育

教育カリキュラムの、実施状況

富士フィルムRC教育カリキュラム編成委員会により、グループ会社全体を対象に、役職や業務内容に合わせた環境カリキュラムを整備・推進しています。

2001年度のカリキュラムの内容は、以下の通りでした。

1. 導入コース：新入社員教育、新任部課長教育
2. 管理者コース：一般コース、化学物質コース
3. 専門家コース：新規化学物質の法対応、LCA、環境配慮設計

2001年度の本カリキュラムの受講者数は、富士フィルムおよびグループ会社を合わせて1600名を越えました。

従来から、ISO14001に基づいて生産・研究などを行う各事業所で、その事業所固有の環境保全対策についての教育が行われていましたが、その範囲を拡大し、各々の対象者に対してより幅の広い知識を提供するものになっています。

今後、さらに環境教育カリキュラムを充実させ、富士フィルムグループ全体の環境保全活動の向上を推進していきます。



OHPを利用した講習に熱心に耳を傾ける参加者。
(富士フィルム札幌営業所)

社内ネットで環境教育を実施、「eラーニング」システム

富士フィルムはグループ会社を含めた全社員を対象に、ネットで環境教育を行う「eラーニング」システムを導入します。パソコンを利用して自由な時間に受講でき、テスト形式でどこまで理解できているかをチェックすることもできます。2002年度中に富士フィルムに導入、2003年度末までに国内グループ会社全体で利用開始、さらに海外にも広げていく予定です。

RC監査

JRCC（日本レスポンシブル・ケア協議会）のRCパイロット検証を受審

JRCCは自主管理活動であるレスポンシブル・ケア(RC)の透明性や信頼性を確保するためにレスポンシブル・ケアコードを作成し、2002年度よりRC検証制度を開始しています。

検証の目的は、

コードに沿って客観的な評価を行うことにより「企業のRC活動の質を高める」こと。

検証制度の内容や受審状況を公表することにより「社会からの信頼性の向上」に役立てることで。

JRCCの会員である富士フィルムは社内のRC監査委員会の活動とは別に、グループ会社の富士フィルムロジスティクスとともに2002年3月、本番化直前の最終段階でJRCCのパイロット検証を受審しました。検証は下記レスポンシブル・ケアコードの物流安全コードと化学品安全コードについて行われました。

レスポンシブル・ケアコード

マネジメントシステムコード	環境保全コード
	保安防災コード
	労働安全衛生コード
	物流安全コード
	化学品安全コード
	社会との対話コード

* レスポンシブル・ケアコードとは、現在考えられるレスポンシブル・ケア活動の理想的な姿を規定したものです。その構成は、上記の7つの個別コードより成り立っています。環境保全コードから社会との対話コードに至る6つのコードは具体的な活動を規程したものであるのに対し、マネジメントシステムコードはこの6つの分野に渡るレスポンシブル・ケア活動の一つのマネジメントシステムで運用管理するための要求事項を規定しています。

化学業界の専門家とJRCC事務局より構成された検証員により、化学品・製品安全、物流安全をベースとした質問表への回答並びに添付資料の記載内容チェック、環境・製品安全推進部長をはじめ担当者へのヒアリング、関係書類の審査が行われました。その結果、管理システムは非常に良く整備されているとの評価を受けました。具体的には、

リスクアセスメントの結果を反映し、方針、目標の設定そして計画の策定とシステムが立派に構築され実施されていること。VOCの排出削減に見られるように、目標の設定およびその達成へのフォロー体制がしっかりと管理され、パフォーマンス指標の改善が顕著であること。

が挙げられました。また、今後期待される事項として、協力業者への点検・監視の結果のフィードバック機能について万全を期すこと。

教育・訓練について、PDCAのCAがよりきちんと廻るようにチェックシステムを充実し、教育・訓練の実効をより高めること。

が挙げられました。

今回のパイロット検証での留意点を改善し、今後の環境活動のステップアップに繋げていきます。

なおJRCCのレスポンシブル・ケア検証制度開始のお知らせは、下記アドレスに掲載されています。

http://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/info/pdfs/RCV_RF-1.pdf